

会館だより

2011年 12月号 第270号



財団法人日中友好会館

「会館だより」12月号の内容

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・辛亥革命 100 周年記念・
中国油絵日本交流展

《日中友好後楽会》

- ・談話会

活動記録

- ・第 21 回中国文化之日を終えて
- ・小田原ホームステイの感想
- ・箱根温泉之旅
- ・裏千家の懇親茶会に招待されて
- ・10 月談話会
- ・平成23年度中国青年メディア関係者代表団
第2陣が来日
- ・平成 23 年度中国高校生訪日団
第3陣が来日
- ・2011 日本青少年訪中代表団第 1 陣
462 名が訪中、各地で交流を行う

会館行事と人の動き

表紙

『キンケイとザクロ紋様の掛け布団カバー』

(中国民間工芸「ろうけつ染め」

82 cm×127 cm 苗族 貴州丹寨)

行事案内

日中友好会館美術館

◆辛亥革命100周年記念・ 中国油絵日本交流展

会期：2011年12月6日(火)～10日(土)

時間：10：00～17：00

※初日は16：00より開幕式

入場料：無料

主催：中国人民対外友好協会、中国和平統一促進会、中国日本友好協会、黄埔軍校同学会、中国現代史学会、日本中国和平統一促進会

辛亥革命100周年を記念し、侯一民氏、戴士和氏など中国の著名芸術家たちが革命先駆者への敬慕の思いを込めて、歴史的意味のある人物をテーマに作品を制作しました。これらの作品は、2011年9月29日～10月11日に北京の中国美術館で開催された「辛亥革命100周年記念・中国油画展」に出品され、今回はその中から厳選した作品を展示いたします。どうぞご来場ください。

【お問合せ】

(財)日中友好会館 文化事業部

電話：03-3815-5085

e-mail: bunka@jfc.or.jp

日中友好後楽会

◆談話会

12月は談話会をお休みとさせていただきます。東日本大震災や台風の影響により、本年はいくつかの行事を中止、延期せざるを得ませんでした。夏以降は徐々に例年のようになりズムを取り戻し、またにぎやかに活動できるようになりました。有難うございました。

来年1月下旬に新春談話会を予定しております。詳しくは1月号に掲載いたします。お身体に気をつけて、良いお年をお迎えください！

(後楽会事務局 小林)

活動記録

◆第 21 回中国文化之日を終えて



子供招待公演

「第 21 回中国文化之日」では、「大草原からの響き 2011」と題し、中国の内モンゴル自治区の民族芸能公演と、その文化を紹介する展覧会を開催しました。

展覧会では、モンゴル族やエヴェンキ族、ダウール族など、内モンゴル自治区フルンボイル大草原地域に暮らす少数民族の人々の暮らしを紹介しました。展示に加えて、実際に入ることができる本物の移動式住居ゲルの設置や民族衣装の試着、ホーミーのミニ講座など、体験型のイベントも実施し、好評を得ました。

フルンボイル民族歌舞劇院を招いた公演は、本会館大ホールにて、10月21日から3日間計5公演を行い、合計約1000名が来場しました。親子連れ、若者、ご年配の方など、幅広い年齢層の観客が集まり、全回満席の盛況な公演となりました。

公演は、14名の団員が揃った賑やかな歓迎の歌から始まり、モンゴル族の民謡であるオルティンドー、馬頭琴の合奏、頭にお碗を載せて踊る頂碗舞、ダウール族の群舞、一人で同時に異なる二つの音を出す独特の

歌唱法であるホーミーなど、多様な演目で構成され、観客全員が魅了されました。最後には、本公演のために翻訳して練習した日本の歌曲「ふるさと」が、日本語とモンゴル語で披露されました。内モンゴルの民族楽器の伴奏に合わせて演者と観客が共に歌い、会場は一つになり、大いに盛り上がりました。

幕間では、フルンボイル大草原の少数民族の民族衣装のファッションショーがあり、豪華絢爛な衣装が次々と披露され、拍手が鳴り止みませんでした。公演終了後も出演者との交流や写真撮影の時間があり、会場前はいつまでも熱気と興奮に包まれていました。観客アンケートでも、「内モンゴルに行ってみたくなった」「モンゴル族に初めて興味をもった」「素晴らしいホーミーにうっとりした」など、内モンゴルに興味や好感を抱き、これから注目したいという意見が多くみられ、日中文化交流として大きな収穫を得たと実感しました。



早稲田大学大隈記念講堂大講堂特別公演風景

また、24日には、早稲田大学大隈記念講堂大講堂にて特別公演を行い、25日には、東京都立文京盲学校にて、特別公演及び交流活動を行いました。これからも中国各地の素晴らしい文化芸術の紹介を通して、日中の交流に尽力していきたいと思えます。

(文化事業部)

◆小田原ホームステイの感想



小田原城にて小嶋ご夫妻と

2011年11月2日から4日までの三日間、私達四人は小田原市の小嶋先生に招待されて、小嶋先生のご自宅にホームステイに行きました。この三日間でたくさんの楽しい思い出が残りました。

鴨宮に着いた時、元気な小嶋先生と優しい奥様が駅へ迎えに来てくれました。車で自宅に行く時、小嶋先生は小田原について様々の話を始めました。先生は小田原の歴史や以前招待した後楽寮寮生について、たくさん紹介してくれました。先生は日中友好のために、この数十年間に、七百人以上の中国留学生を自宅に招待してくれました。私たちにとって、このホームステイは中国人の友好の気持ちを先生たちに伝えることであり、日本人と中国人の間に、友好の橋をかけられるように頑張っていきたい。

先生のご自宅についた後、先生と奥様は美味しい日本料理を作ってくれました。みんな食べたり、笑ったり、留学生の日本生活を話したり、楽しい時間を過ごしました。食事の後、奥様は紙花の折り方をおしえてくれました。普通の新聞紙から、美しい花を作

りました。みんな自分の作品を見て、とっても嬉しかった。

翌日、先生と奥様と一緒ににおにぎりを作った後、みんなで箱根に出發しました。当日、箱根では大きな祭りの様な行事が行われました。その名は「大名行列」でした。綺麗な山々の中、江戸時代の様な武士や姫様や殿様が次々目の前を通過して、ずいぶん盛り上がりました。行列を見学したあと、みんなで小田原城にいきました。

小田原城は日本有数な名城の一つでした。昔戦国時代、この城をめぐり、大きな戦が何回も起こりました。今の小田原城の中には当時の武器や芸術品などが完璧な形で残されていました。遊びながら歴史も勉強できて、本当に有意義な時間を過ごしました。

そして、最後の日を迎えました。皆一緒に、小嶋先生の畑にみかんを取りに行きました。その山から富士山を眺めながら、みかんを取りました。朝の風が吹いて、とっても気持ちよかったです。その後、寮生は先生ご夫妻に恩返しのため、餃子を作りました。先生と奥様も喜んでくれました。

短い三日間が過ぎ、別れる時が来ました。この三日間、本当に「来てよかった。」と思いました。先生と奥様からは優しさと感じ、皆本当に感動しました。たとえ中国に帰っても小嶋先生と奥様の事は一生忘れません。先生ご夫妻の健康をずっと祈ります。私たちも日中友好のために、自分の力を尽くすよう頑張ります。

(後楽寮寮生 張 牧原)

◆箱根温泉之旅

2011年10月25日(火)は、貴重な機会を得て箱根への旅をさせて頂きました。大変面白く楽しみを満喫した旅なので、本当に、有り難くて名残りが尽きないと感じております。この旅行の由来と経緯を紹介し、それにおける自分の見聞と感想を述べさせていただきますと思います。

今回の旅は、「中国人留学生友の会」という友好団体によって立案され組織されるもので、わが後楽寮に住んでいる20名の学生と、ほかに東京で留学し暮らしている20名位の中国人留学生が、一同に参加するとされたイベントである。さて、朝早々、我々一行は出発し、電車で東京駅に行き、事前に用意される一台の観光バスに乗せて貰った。バスの中に、中国人留学生友の会の指導者である上野女史と事務次長を務める青木女史が、われわれに向けて、声を掛けて親切に自己紹介をなさり活動の要旨を簡潔にご説明してくれる。そのご厚情に対しすべての学生が熱烈な拍手と感謝の声で応える。その後、我々全員は、一人ずつ、日本語及び中国語で自己紹介を行い、車内に大きな歓声が響き渡った。皆さんはお互いに談笑したりして、和気藹々の雰囲気バスが包まれる。

初めて行く見物の場所(大涌谷)は、硫黄の煙が沸き立ち漂いつつある山である。山の中に築かれる緩やかな歩道に沿って、その煙霧垂れ込む光景を目にし、独特で強烈な匂いを嗅ぎ取りながら、散歩していた。又此処に於いて最も印象深いのは、所謂「黒い玉子」と呼ばれるお土産であり、即ち硫黄など天然成分が豊富に入っている温泉水に煮られる殻が真っ黒に染められた玉子だ。黒い玉子を豪快に食べているみんなの姿は面白い。次に、本日最高潮の目的地、ある有名な温泉施設に到着する。その主な遊び所は、色んな特色が溢れた、個性豊かな露天風呂であり、その楽しさと醍醐味が絶妙です。例えば「コーヒー風呂」はコーヒ

一の香りと色取りがあるお風呂であり、「ワイン風呂」と「緑茶風呂」と「お酒風呂」はそれぞれワインと緑茶とお酒の香りと色彩を帯びているお風呂である。又「炭焼温泉」は簡素な和式で湯気盛んな温泉として頗る印象的だ。そして、実際にそれらのお風呂に入って浸ってみると、身体の芯まで暖かくなり、最早温泉に融合し陶醉してしまう。まさに、心身共は大いに癒されるような至福そのものだ。その一連の多彩多様のお風呂を誕生させた素晴らしい創意工夫に感動し脱帽する。さらに、周りにある小さな溪流と鬱蒼と生い茂る樹林との野外の風景は、お風呂に呼応した相性の良い存在として誠に興味深い。



上野さんを囲んで

大変楽しんでいた私たちは、時間があっという間に過ぎているのを感じた。知らず知らずのうちに、午後四時になりまして、我々は集合のところに集まり、バスに乗り帰途につきました。美しき箱根を離れるのは、なんと名残惜しい気持ちであろう。今回大変有意義で楽しい旅を立案し組織して下さった「中国人留学生友の会」、上野女史と青木女史を始めとする関係者の方々に対し、謹んで真摯なる深謝を申し上げます。皆さんのご健勝とご多幸を心よりお祈りしながら、今後とも、こんな愉快で有益で素晴らしい活動のチャンスを与え続けてくれるよう切願してやみません。皆さん、どうもありがとうございました。

(後楽寮寮生 黎力)

◆裏千家の懇親茶会に招待されて



大田区裏千家の皆さんと

2011年10月23日に、日中友好会館留学生事業部周曉光部長及び9名の寮生は、理事長の奥様である村上祺子様が大田区裏千家の懇親茶会へ招待されました。

周部長と寮生の一行は、大田区裏千家の濃茶席、薄茶席及び香煎席に参加し、茶道の基礎知識及び作法の指導を受け、きちんと正座してお茶とお菓子を味わいました。寮生達は、茶道の話を興味深そうに聞いたり、指導者と積極的に交流したり、会場の生け花を観賞したり、写真を撮ったりしていました。

このような、日本伝統文化の茶道を体験することは、寮生達の励みになり、日中友好の交流に役立つと思います。

この場をおかりしまして改めて感謝申し上げます。

(後楽寮寮生 李 潔瓊)

◆10月談話会



講師の胡波さん(右)と通訳の孔曉鑫さん

10月17日、寮生委員長で、現在早稲田大学にて研究されている胡波さんを講師に迎え、「新エネルギーの利用と開発」というテーマでお話いただきました。新しいエネルギーである太陽光、風力、地熱、海洋温度差、潮力などについての紹介、従来のエネルギーの石炭、石油、天然ガスなどとのCO2排出量の比較や、原子力発電と世界の現状についても言及し、参加者は興味深く聴講していました。

(後楽会事務局)

◆平成23年度中国青年メディア関係者代表团 第2陣が来日

「観光による地域活性化」、「教育」、
「防災」をテーマに活動



団員と交流する浜田和幸・外務大臣政務官（中央）
（歓迎レセプション）

10月17日から10月23日の日程で、平成23年度中国青年メディア関係者代表团第2陣（団長＝丁小鳴・国务院新聞弁公室二局副局長）が来日した。一行は、同弁公室の幹部4名及び、中央・地方の若手メディア関係者、メディア行政関係者90名からなる計94名で、新聞・テレビ・ラジオ・インターネットなど各分野の従事者が中国全土より集まり、多様性に富んだメンバー構成となった。訪日期间中、3グループに分かれ、「観光による地域活性化」、「教育」、「防災」をテーマとして、それぞれ視察や交流を行った。

本団招聘事業は、平成19年度より、外務省が推進している「21世紀東アジア青少年大交流計画（日中21世紀交流事業）」に、平成22年度より700名の交流拡大が決定され、そのうちの1分野として実施されたものである。今回で5回目の招聘となった。

10月18日夜には、代表団の訪日を歓迎し、レセプションが行われた。浜田和幸・外務大臣政務官、鄧偉・中華人

民共和国駐日本国大使館参事官、丁小鳴団長をはじめとする代表团団員、日本のメディア関係者などが出席した。

東京で各種プログラムに参加

10月18日には、第1分団がフジテレビ、第2分団が毎日新聞社、第3分団が共同通信社を訪れ、日本のメディア現場を視察し、関係者と交流した。

また、10月19日には、全分団で外務省を訪問し、濱田隆・同省アジア大洋州局日中経済室長による現在の日中経済関係についての講演を聞いた。同日午後には、「転換期のマスメディア」をテーマとする日中メディア懇談会を行った。林香里・東京大学大学院情報学環教授による基調講演のあと、80分間のグループディスカッションでは、グループごとに活発に意見交換がなされ、互いに認識を新たにしました。

石川、秋田、新潟でテーマごとに活動

「観光による地域活性化」をテーマとする第1分団は、18日に観光庁、20日に石川県を訪問し、国や県レベルでの観光施策に関するブリーフに参加した。また、20日から21日にかけて、魅力的な観光地づくりについて見聞を広めるため、能登地方を中心に観光地を視察し、自然・歴史・文化の面から石川の魅力を味わった。金沢市内で兼六園等を参観した際は、ボランティアガイドによる案内を受け、中国では普及していないボランティアガイドの取り組みも体験した。

「教育」をテーマとする第2分団は、18日に東京都教育庁で東京都の教育に関するブリーフに参加したほか、19日は港区立高輪幼稚園、21日には秋田市立明德小学校と秋田県立秋田南高等学

校を訪問した。幼稚園や小学校では、子供たちが元気な踊りと合唱を披露し、団員を歓迎した。また、高等学校ではさまざまな授業を見学し、放課後は茶道部などの部活動にも参加した。さらに教職員との懇談も行い、日本と中国の教育の相違点や参考にするべきところなど見識を深めた。



園児が元気よくお出迎え
(港区立高輪幼稚園)

「防災」をテーマとする第3分団は、21日に新潟県防災局を訪れ、新潟県の危機管理体制や防災戦略・啓発への取り組みについて話を聞いた。その後、新潟県中越地震の被災地である長岡市山古志地区へ赴き、市担当者の案内のもと、山古志平野・木籠水没住宅・天空の郷といった被災地の現状や復興状況を視察した。2008年の四川大地震以降、中国国内でも防災対策や復興政策への関心が高まっており、視察後も活発に質疑応答が行われた。実際に日本の防災対策や復興計画を見聞きし、多くのことを学び取った。

その他、代表団は国会議事堂や防災施設の参観、都内や地方で自然・歴史・文化などに関する参観を通じ、包括的な日本への理解を深めた。

10月22日夜に東京で歓送報告会を

行い、日本滞在中の活動や体験を振り返った。団員からは、中国に帰ったら今回の体験を多くの人に伝えたいとの意気込みが聞かれ、賑やかな雰囲気の中、皆で訪日活動の成功を祝った。

代表団一行は、7日間の日程を終え、10月23日に羽田空港より帰国の途についた。本事業の実施にご協力頂いた外務省、中国大使館、受入関係機関等の皆様に厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆平成23年度中国高校生訪日団 第3陣が来日

富山、千葉、和歌山、滋賀、大阪、
京都、兵庫、佐賀、長崎で交流

「21世紀東アジア青少年大交流計画（日中21世紀交流事業）」の一環として、9月11日より19日まで、平成23年度中国高校生訪日団第3陣（王家勤総団長、彭継東副団長、一行総勢397名）が来日した。同団は北京市、河北省、江蘇省、吉林省、広東省、江西省、湖南省、山西省の1市7省から選抜されたメンバーで、Aコース196名を当財団が、Bコース201名を社団法人青年海外協力協会が担当し、各地で交流を行った。

本団は東日本大震災の影響による第1陣、第2陣の延期を受け、今年度初めての中国高校生の訪日となった。

同団Aコースは9月11日に成田から入国し、8泊9日の日程をスタートさせた。翌12日に外務省を訪問し、セミナーを受講、その後歓迎レセプションに出席した。

セミナーでは、様々な渋滞を分野横断的に研究する「渋滞学」を提唱し、国内外

から注目を集めている、西成活裕 東京大学 先端科学技術研究センター教授による「渋滞の科学と譲り合い ―渋滞学とは何か―」をテーマとした講演を聞いた。中国でも社会問題となっている渋滞の研究に高校生たちは大いに興味持った様子で、「個人の利益と全体の利益は一般に一致しない。損して得を取ることを一人ひとりが学べば、社会全体が得をする」という結論に、深く考えさせられたようだった。



河北省の高校生と語り合う中野謙 外務大臣政務官
(歓迎レセプション)

続く歓迎レセプションはA、B両コース合同で行い、中野謙外務大臣政務官、孫建明中国大使館公使参事官ら来賓を含め、総勢 500 名近くが一堂に会する盛大な会となった。中野謙外務大臣政務官からは、「アジアの発展のために、隣国である日本と中国は協力し、理解し合わないといけない。この機会を通して日本と日本人について学び、日中の懸け橋になってほしい」と、中国高校生への期待が述べられた。両国高校生によるパフォーマンスでは、今年度のジャパンカップチアリーディング日本選手権大会で第7位の成績を収めた東京高等学校チアリーディング部が、アクロバティックで元気あふれるすばらしいパフォーマンスを披露した。

また中国側は江蘇省南通市啓秀中学の高校生がチベットの民族舞踊を披露し、会場から大きな拍手が送られた。

充実した学校交流とホームステイ

13 日からは 4 コースに分かれて各地を訪問した。各自治体及び教育委員会、受け入れ校、国際交流団体の協力を得て、富山、千葉、和歌山、滋賀、大阪、京都、兵庫、佐賀、長崎において学校交流やホームステイを実施した。

学校交流では、英会話や太巻きの調理実習などの授業に参加したり、茶道や柔剣道などの部活動を体験したほか、日本と中国の高校生活について意見交換したり、自分の住む町について紹介し合うなど、多彩なプログラムに参加し、同世代の日本高校生と親睦を深めた。今回訪問した学校は中国への修学旅行を実施したり、中国をはじめとする外国との交流に熱心な学校が多く、各校で熱烈的な歓迎を受けた。交流の場面では、最初は緊張していたものの高校生同士、好きなアニメやファッション、また将来の夢についてなど、同世代共通の話題で盛り上がり、どの学校でも笑顔に溢れていた。

ホームステイは交流した日本高校生の家庭を中心に、一部地域では国際交流団体の協力による一般市民家庭で実施した。ホストファミリーの温かいもてなしに、中国高校生もすぐに打ち解けることができ、英語や即席で覚えた日本語、また身振り手振りで会話を弾ませていた。「迎えていただいた経験をもとに、今度は自分が中国の高校生をもてなしたい」と話していた。

自由時間には、ホストファミリーと一緒にショッピングに出かけたり、日本の家庭料理を味わうなど、楽しい時

間を過ごした。

別れの場面では、日本の友人、お父さん、お母さんと抱き合っただけの名残を惜しみ、別れた後もしばらく涙が止まらない中国高校生の姿があった。ホストファミリーとなった日本の高校生は「日中関係はいろいろあるけれど、中国の人は悪い人ばかりではないということ、外国の人とでも分かりあえることはたくさんあることなど、たくさん学びました」、「たった2日間だったけど、家族の話や学校の話がたくさんすることができて、中国に興味を持つことができました」などと話していた。日中青少年交流の意義や草の根交流の重要性を、実体験として理解してもらえたプログラムとなった。

そのほか一行は、世界遺産の五箇山合掌集落や金閣寺をはじめ、吉野ヶ里歴史公園、琵琶湖、大阪城など各地の名所旧跡や自然景勝地を参観したほか、和紙すき、蒔絵、博多人形の絵付け、友禅染めなどの体験を通し、日本の伝統文化の一端に触れた。また環境・防災学習として、東京都の本所防災館、中央清掃工場、中央防波堤埋立処分場、大阪市立阿倍野防災センター、福岡市民防災センター、佐世保市東部クリーンセンター、兵庫県の港島クリーンセンター、人と防災未来センターを参観した。

全ての交流プログラムを終了し、Aコース196名は多くの思い出を胸に、9月19日に関西空港より帰国の途に着いた。本事業の実施にご協力頂いた外務省、文部科学省、中国大使館、各自自治体・教育庁・教育委員会、学校関係者、受入関係機関等の皆様に厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

◆2011 日本青少年訪中代表団第1陣 462名が訪中、各地で交流を行う

2011 日本青少年訪中代表団第1陣(総団長＝中野譲外務大臣政務官)が10月12日から18日の日程で訪中した。中国側は中華全国青年連合会が受け入れを担当し、当財団が派遣実施を担当した。代表団は行政・国会議員、友好団体、経済、地方交流、ミス日本、ポップカルチャー、メディア、教育関係者、環境・省エネ、文化の青年で構成された462名で、北京のほか河南省、四川省、湖北省、湖南省、広東省、吉林省、遼寧省、上海市を訪問した。北京では13日、天安門広場、故宮博物院を見学した後、少数民族文化園にて少数民族の文化を体験した。同日夜には北京飯店で開催された歓迎レセプションに参加した。懇談中には文化分団の茶道裏千家の参加者から日中代表者にお茶がふるまわれた。後半では日中双方の出し物があり、日本側は文化分団の池坊華道会から生け花パフォーマンスを、中国側は民族舞踊、歌、カンフー劇を披露し、盛況の中、終了した。



北京歓迎レセプション 池坊華道会パフォーマンス

14日からは分団ごとに4コースに分かれて中国各地を訪問し、中国青少年と交流を行った。

Aコース（行政・国会議員・友好団体） 【河南省（鄭州）－四川省（成都）コース】

行政・国会議員分団 23 名と友好団体分団 81 名は、河南省、四川省を訪問した。河南省では、行政・国会議員分団はコミュニティーを訪問し、幹部及び住民と意見交換を行い、友好団体分団は、青少年心理電話相談センターを併設する青少年宮を訪問した。また、全体で新農村建設のモデルである馬渡新村の訪問や、名高い少林寺の参観や少林寺拳法の演武を鑑賞した。

四川省では、四川大學を訪問し、小グループに分かれ自由に座談交流を行った。日本に対する印象、四川大地震の際の大学の対応、将来の進路、学生生活について等さまざな質問が出て時に談笑する姿が見られた。

最終日の夜には歓送会が催され、日中双方から歌や伝統芸能等のパフォーマンスが披露され、賑やかな雰囲気の中、別れを惜しんだ。

Bコース（経済・地方交流） 【湖北省（武漢）－上海コース】

経済分団 51 名と地方交流分団 125 名は湖北省、上海市を訪問した。湖北省へ移動した後、武漢にて分団ごとに、武漢鋼鉄会社と東風汽車集団股份有限公司を参観したほか、青年企業家および旅行業関係者とそれぞれ意見交換を行った。

また湖北省博物館や黄鶴楼、東湖、辛亥革命記念館を参観し、内陸の地、湖北省の文化・歴史について学ぶことができた。とくに今年は辛亥革命 100 周年にあたるため、記念館の訪問は団員にとって意義深いものとなった。

上海では、東華大學を訪問し、小グ

ループに分かれて日本語学科の学生と交流を行った。話題は学生の生活や、進路希望、結婚観から、日本に対する印象、また中国政府に対する見解など多岐に及び、どのグループも和やかな雰囲気の中、活発に意見交換を行った。



東華大學で大学生と意見交換（Bコース）

最終日の夜には歓送会が催され、最後には日本側も中国側も一緒になって全員で肩を組み、「乾杯」を熱唱して、賑やかに訪中を締めくくった。

Cコース （ポップカルチャー・ミス日本・メディア） 【湖南省（長沙）－広東省（深圳）コース】

ポップカルチャー分団 46 名とミス日本分団 30 名、メディア分団 25 名は湖南省（長沙）、広東省（深圳）を訪問した。北京でポップカルチャー分団は北京電影學院を訪問し撮影スタジオ等を見学、関係者と交流を行った。

長沙では、ポップカルチャー分団が湖南藍猫マスメディア有限公司を訪問し、中国アニメ制作現場を視察し、関係者と交流を行った。お互い同じ分野で仕事をする者同士、作業の分担や制作方法、納期、キャラクターライセンスに至るまでさまざまな質問が出され

た。

ミス日本分団は湖南師範大学・工学院服飾学部を訪問し、中国側は学生モデルによるショーを、ミス日本は有志3名によるウォーキングを披露した。メディア分団は湖南衛星テレビ局、瀟湘新聞社を訪問し、編集者や記者らと意見交換を行い、報道機関の在り方について率直に意見を交わした。また、全分団で毛沢東にゆかりの深い湖南大学を訪れ、分団ごとに関連する分野を専攻する、志高い学生達と交流を図った。

深圳ではポップカルチャー分団、ミス日本分団は深圳大学で学生の多彩なパフォーマンスを楽しみ、交流会では日本のアニメに関する質問が多く出された。メディア分団は、国内でネットユーザーの80%が利用しているという成長著しい中国最大のインターネット企業、騰訊公司を訪問し、若い企業家の話に耳を傾けた。

深圳での最終日の夜には盛大に歓送会が催され、その後総勢300名が動員される壮大なナイトショーを楽しみ、団員一同は中国側の心遣いに感激した。

Dコース

(教育関係者、環境・省エネ、文化)

【吉林省(長春)－遼寧省(大連)コース】

教育関係者分団22名と環境・省エネ分団23名、文化分団33名は、吉林省、遼寧省を訪問した。吉林省長春に移動した後、まず中国最大の自動車グループの一つである中国第一自動車集団を訪問し、生産ラインや紅旗自動車記念館を見学した。翌日、教育関係者分団は、日中共同で設立した日章学園長春高校を訪問し、授業見学の中で日本語を学ぶ生徒達と交流した。将来日本への留学を考える生徒からは熱心な質問が次々と出された。環境・省エネ分団

は汚水処理場を訪問し、処理施設や沈殿池を見学。現場担当者より丁寧な説明を受けた。文化分団は、東北師範大学美術学院を訪問した。アトリエ見学に続いて行われた学生との意見交換では、中国の学生より日本のアニメに対する高い評価が聞かれた。

大連では、教育関係者は大連市79中学・小学部を訪問。全校生徒が参加する休み時間の体操や授業を見学、日中教師座談会では率直な意見交換を行った。環境・省エネ分団は、徳昌エネルギー環境発展有限公司を訪問し、中国の環境問題に関心の高い団員からは数多くの質問が出された。文化分団は、アニメ産業基地を訪問。多岐にわたる活発な意見交換の後、東京芸術大学の学生が制作したアニメのDVDをプレゼントした。歓送会では、日中の青年が司会を担当し、日中あわせて7つのパフォーマンスが披露された。すっかり仲良くなったボランティアの学生と写真を撮ったり、連絡先を交換したりする姿があちこちで見られた。

一行は10月18日に中国各地から帰国した。団員からは「各訪問先で熱烈歓迎を受け感激した」、「同年代の中国青年と忌憚なく意見交換ができた」、「今回出会った中国の方々と今後も交流を続けていきたい」、「初めて日中交流事業に参加したが、今後もこのような活動が継続されることを希望する」といった声が聞かれ、大きな成果を得ることができた。

今回の訪中にあたりご尽力いただいた外務省、中華全国青年連合会ほか関係機関の皆様には厚くお礼申し上げます。

(総合交流部)

会館行事と人の動き 10/1～31

● 会館行事

- 9/30～10/23 ▶ 中国文化之日「モンゴル族の暮らし展」
- 10/ 6 ▶ 後楽会 気功・中国画教室、中国旅行結団式
- 10/11 ▶ 日本青少年訪中代表団第1陣オリエンテーション
- 10/12～10/18 ▶ 日本青少年訪中代表団第1陣 訪中
- 10/17 ▶ 後楽会 談話会「新エネルギー開発と利用」(講師:胡波)
- 10/17～10/23 ▶ 中国青年メディア関係者代表団第2陣来日 (10/18同団歓迎レセプション、10/22歓送報告会)
- 10/20 ▶ 後楽会 気功・中国画教室
 - ▶ 中国文化之日公演団フルンボイル民族歌舞劇院 歓迎宴
- 10/21～10/23 ▶ 第21回中国文化之日公演「大草原からの響き2011ーフルンボイル民族歌舞劇院公演」
(10/24早稲田大学大隈記念講堂特別公演、10/25東京都立文京盲学校交流公演)
- 10/29 ▶ 中国青年指導幹部訪日団後楽寮視察、寮生と懇談

● 来館・訪問・面会

- 10/ 4 ▶ 外務省 垂秀夫中国・モンゴル課長往訪 (村上理事長)
- 10/ 5 ▶ 竹下亘事務所往訪 (武田常務理事)、中国留学生友の会世話人代表岡島昭治氏来館 (入江常勤参与)
- 10/ 6 ▶ 江橋崇氏往訪 (武田常務理事)
- 10/13 ▶ 殷秋雄、張瓏庭評議員来館 (村上理事長、武田常務理事)、日中経済協会関誠理事往訪 (武田常務理事)
- 10/19 ▶ 成澤廣修文京区長往訪 (武田常務理事、王理事) 秋岡栄子氏往訪 (武田常務理事、王理事)
- 10/20 ▶ 松野信也監事往訪、加藤三郎監事往訪 (武田常務理事、小島事務局長)
- 10/21 ▶ 福田昭昌理事来館 (武田常務理事、王理事)
- 10/26 ▶ 中国国際航空 羅勇支店長来館 (王理事)
- 10/27 ▶ 横川健評議員往訪 (武田常務理事)
- 10/28 ▶ 和中簡堂 東瀛印社会長来館 (村上理事長)

● 行事参加、その他の活動

- 10/ 1 ▶ 横浜華僑総会 国慶節 (武田常務理事)
- 10/ 6 ▶ 清華大学日本研究中心 曲徳林主任他 歓迎昼食会 (村上理事長)
- 10/17 ▶ 第79回独立展 (於: 国立新美術館、村上理事長)
- 10/18 ▶ 日中文化交流協会創立55周年祝賀会 (村上理事長)
- 10/21 ▶ 中国大使館教育処 孫建明・白剛 両公使交代懇親会 (村上理事長他)
- 10/23 ▶ 玄葉外務大臣主催蔡武文化部長他歓迎レセプション (於: 飯倉公館、村上理事長)
- 10/25 ▶ 林芳正を支える会 (村上理事長)
 - ▶ 中国留学生友の会主催バス旅行 (後楽寮寮生)
- 10/27 ▶ (社)岸本倶楽部 岸本昌子会長・加藤昌夫専務理事懇親会 (村上理事長)
 - ▶ 留団協定例会議 (於: 早稲田奉仕園、留学生事業部)
- 10/28 ▶ 長崎ゆかりの交流会 (於: 八芳園、王理事)
- 10/31 ▶ 外務省 江崎智三郎首席事務官、中国・モンゴル課 遠山茂地域調整官他懇談会
(谷野副会長、村上理事長他)